

## 第2回日本サケ釣りサミット in 奥入瀬川

### サケ釣り河川関係者会議（サミット）協議結果の記録

1. 日 時 平成20年11月15日（土）15：00～17：20
2. 場 所 青森県十和田市 馬事公苑 称徳館
3. 出席者 約30名（別紙出席者名簿のとおり）
4. 協議結果

#### （1）サミットの趣旨について

◇第1回サミット実行委員長の会長代理である藤本副実行委員長より、主催者挨拶の中で説明

- ・昨年、全国で13河川にまで増えたサケ釣り河川が将来にわたって共存共栄していくために、各河川の関係者が顔を合わせて話し合える場を持ち、川のサケ釣りを広く周知していくことが必要ではないかという考えから、北海道標津町において第1回サケ釣りサミットを開催した。この会議は、皆で課題や将来のことを話し合い、これからの事業の推進に役立てようという趣旨である。



#### （2）前回のサミット会議の経過報告

##### ①各河川の課題について

- ・各河川の課題について大まかに言うと、北海道はルール違反者と参加者の減少、本州は資源があまり多くないことと増殖事業との兼ね合いに関することが主なものであった。
- ・ルール違反を行う者は一部であり、大半の参加者はルールを厳しくしてもいいから楽しく気分よく釣ることを望んでいる。これからは、一部のルール違反をなくすることに努めるとともに、ルール・マナーを守る釣りを広く普及させることが必要であるというのが皆の共通の認識であった。そして、ルール・マナーを守る釣りをこの川のサケ釣りでつくりあげ、全国に普及させて行ければ良いということ



でおおよその意見が一致した。

②各河川が協力してできる取り組みについて

- ・意見を出し合ったところ、次のような意見が出ており、今後、何ができるか皆で話し合っていくことにした。

川のサケつりの宣伝・周知～PRイベントの実施など、全国共通ポスター、パンフレット等の作成、共通ルール・釣具規制の統一、各河川の情報の共有、全国サケつり河川協議会の立ち上げ、(将来的に) 全河川共通ライセンスの発行

③「日本のサーモンフィッシング」の将来像について

- ・意見を出し合ったところ、次のような意見が出ており、今後、実現に向けて皆で話し合っていくことにした。

参加しやすい申込受付体制への改善、  
全河川共通窓口、共通ライセンスの発行、  
全国共通のルールづくり



④「日本サケつりサミット」の今後の進め方について

- ・年に1回、このような情報交換や話し合いの場があると、課題の解決や全体でサケつりを盛り上げていくことができるので、ぜひ続ける方向で進める、できれば各河川が持ち回りで進められれば良い、「全国サケつり河川協議会」のような組織を立ち上げた方が進めやすいのではないか、ということで意見が一致した。

⑤ゲストの方々からの励ましの言葉

◇風間 深志さん

- ・サケという魚は特に凄い魚である。産業の資源として町を形成している。サケは産業、つり、子供たちへの教育、自然のバロメーター、海と陸をつなぐ大きな素材であるなど、資源として大きな意味を持っている。
- ・サケつりは難しいつりであり、誰でも簡単につれるものではなく、つり技術、ルール・マナーの会得、心構えなどが必要な完熟したスポーツフィッシングである。金儲けのために人を呼ぶ方法ならたくさんあるが、金儲けではなく、サケはたくさんの方々の大きな意味を持った魚であるから、その活用のシステムづくりをこの会議で話し合っていけば良い。
- ・人を増やす方法ならいくらでもあると思う。この事業をどういう位置づけにして、どういう人を対象とし、どういう目的で人を呼ぶか、落とし所を決めれば方法は

いくらでもある。サケを釣りたい人ならいくらでもいる。そういう人が来られるようにルールを敷いてやれば人はいくらでも来る。

- ・つりのことでこのような会議を真剣に行っているのは面白い。この会議は物凄く大事で良い会議であり、絶対に続けたほうが良い。

### (3) 「全国サケつり河川協議会」の設立について

- ・別紙規約（案）のとおり承認された。
- ・会長には 鈴木 誠 氏（第1回サミット実行委員会 会長）を選任
- ・今回、出席できなかった機関に関しては、事前に連絡を取り合い、多くの機関からはおおむね了承をいただいている。今後、協議会への加入を呼びかけていく。
- ・規約については、参加できなかった機関の意見も取り入れて、より良いものに変えていくこととする。
- ・参加できなかった河川から、開催時期がサケつり実施期間と重なると参加できないので、開催時期を考えて欲しいという意見があったので、今後は各河川の都合も考慮して開催時期を決めることにする。
- ・協議会に加入することによって支出経費が増えることを心配する意見がある。なるべく各河川の負担にならないように配慮した形で進める。

### (4) 各河川の状況と課題について

#### ① 忠類川

- ・最大の課題は、参加者の減少傾向が続いていることである。サケつり河川の中で首都圏から地理的に最も遠いこと、飛行機の便数が少ないこと、全国のサケつり河川が増えていることなどが要因であると考えている。今年については、サケのそ上が非常に少なかったこと、ヒグマの出没が多く区域を狭めたことも影響している。
- ・参加者を増やすための対策としては、「自然が豊かに残された川であること」「カラフトマスも多く、サケとマスの両方が釣れること」「世界自然遺産知床半島の基部にあること」「広い川原でゆったりとサケつりを楽しめること」などをできるだけ広く釣り人の皆さんに周知し続けることが必要であると考えている。
- ・具体的な取り組みとして、北海道の3河川共同ポスターの作成、初心者向けフィッシングスクールなどを行っている。また、釣り人にとって現地の情報は非常に必要なことであるが、ボランティアの忠類川指導員の方々が現地のタイムリーな情報を



ホームページで随時提供して下さっており、このようなきめ細かい情報提供が重要であると感じている。

## ②茶路川

- ・参加者数は延べ人数では2,000人台を維持しているが、実人数ではピーク時に比べ半減していることが課題である。
- ・シーズン券の同じ人が毎日来ており、来てくれるのは有難いが収入にはならない。今年は増殖負担金を支出するために、シーズン券を12,000円から14,000円に値上げしたが、高くなったから来ないという人は1人くらいであった。
- ・(質問) 地元への還元は相当あると思うが、地元の人達の反応、また子供達の反応はどうか。

↓

- ・地元では、まだサケつりによってこれだけ人が来ていることが理解されていないようであり、残念ながら茶路川に何か協力しようという人はいない。来年、茶路川でサケつりサミットを行うことによって、地元の人達にも茶路川のサケつりを認識してもらいたいと思っている。
- ・地元の子供達は、茶路川の橋が通学路であり、サケつりの様子はいつも見ているが、サケはいて当たり前という感覚があり、特別な関心はないと思う。

## ③寒河江川

- ・寒河江川は河口から釣り場まで約100kmあり、釣り区域の魚は相当弱っているが、それでも持って帰る人は増えている。今年は昨年に比べ30〜40代の若い人が増えている。
- ・サケつりを行うことによって、釣り人が訪れ、地元への経済効果が生まれている。今後も積極的に続けていきたい。



## ④奥入瀬川

- ・今年は10回券3万円、シーズン券6万円を新設した。
- ・課題は、釣り人への周知、釣果の安定、情報提供、黒字を定着させることである。
- ・以前からの課題で、特別採捕許可はその人がその日釣りをするという形であるため、雨のためにその日できなかったら代わりの日がないこと、今日楽しかったから明日もやりたいと言われてもできないことがあった。今年はこの点を改善するため、県庁と協議し、当日でも釣り人に許可を出せるようになった。

- ・改善した特別採捕許可の方法は、県庁が実行委員会に対して一日何名までという許可を出し、人の選択は実行委員会に任す形であり、当日、現地の管理棟で受付けてもその場で許可が出せる。ただし、実行委員会はその人が適正であるかしっかり認識したうえで許可を出す必要があり、何かあった場合は実行委員会の責任が問われることになるので、実行委員会の責任は増す。

#### (5) 各河川が協力してできる取り組みについて

##### ①ホームページのリンクについて

- ・各河川の一覧で見れるようにすれば、参加者にとっては非常に分かりやすく便利なので、そのような形を目指して進める。
- ・(藤本氏より) **salmon.jp** の後ろに **tyurui** などと入れれば、その川のホームページにつながるようにすれば便利である。皆が賛成すればできることである。

↓

ホームページのリンクについては、今後、各河川の担当で協議して進める。

##### ②全河川共通のポスター・パンフレット等の作成

- ・全国で14河川あるので、ポスターでは載せれる情報が限られて伝えきれないのではないか。パンフレットであれば14河川の情報も載せることも可能であると考えられる。また、パソコン上であれば詳細な情報提供が可能である。

↓

いずれにしても全部の河川で取り組まなければ、不完全なものになってしまうので、今後の検討課題とする。

##### ③ルール・マナーの統一について

- ・シングルフックのみは全河川で統一されている。基本的なルールの周知はホームページ上でできると考えられる。マナーの向上については今後も皆で努めていくことが必要である。



#### (6) サーモンフィッシングと観光振興について

##### ①奥入瀬川

- ・サケつりは地域の振興に役立っており、ホームページに地域の店の情報も載せて宣伝している。実行委員会には観光部門も入っているが、まだ具体的な行動に至っていないのが課題である。

- ・サケの他にもアユやサクラマスもおり、今はサクラマス資源の造成に力を入れている。
- ・サケつりが始まってから上流までサケがそ上するようになり、上流の人達も今まで見れなかったサケの姿を見て感動している。釣り人だけでなく、一般の人も含めて多くの人達に来て見てもらうことが必要であると思う。

#### ②寒河江川

- ・サケだけでなく、アユつりも盛んであり、一年を通じて釣り客を呼ぶことができる。

#### ③忠類川

- ・ANAがサーモンフィッシングツアーを行っているが、どういう道具が必要か、どんな服装が必要かなど、非常に具体的にきめ細かい情報まで提供している。遠くから釣りに来る人には、現地の情報が非常に重要であり、そのような配慮が大切であると思う。
- ・地元の人がサケつりを行っている事に対してあまり認識がないという話があったが、忠類川でも同じであり、釣り人は朝早くから暗くなるまで川にいたので、町の人には姿が見えず、釣り人が来ていることを知らない人が多い。町の人にもこれだけ釣り人が来ているということを知ってもらうことが必要である。例えば、奥入瀬川では釣り人向けに河原で魚を提供しているが、そこに町の人にも来てもらい、現地を見てもらえば、意識が変わるのではないか。

#### ④茶路川

- ・今回、奥入瀬川を見て、町の人達にも川まで来て見てもらうことが必要であると感じた。

#### (7) 奥入瀬川宣言について

- ・全員賛同し、宣言を採択した。→ 別紙のとおり

#### (8) 次年度の「サケつりサミット」について

- ・茶路川（北海道白糠町）で行うことに決定した。

## 第2部 サミット・フェスティバル

～ サーモンフィッシングの歓び・感動・夢 ～

### 実施結果の記録

1. 日 時 平成20年11月15日（土）18：00～20：30
2. 場 所 青森県十和田市 八幡会館
3. 出席者 約75名
4. イベントの内容
  - (1) 開会のあいさつ 奥入瀬川実行委員会 山本委員長
  - (2) 歓迎と乾杯のあいさつ 青森県坪田水産局長、おいらせ町柏崎副町長
  - (3) 各河川からのPRメッセージ
    - ①忠類川 ②茶路川 ③寒河江川 ④奥入瀬川
  - (4) 郷土芸能 南部駒おどり公演
  - (5) 釣り人から見た日本のサーモンフィッシング  
忠類川プロジェクト 長田 雅裕（神奈川県在住）
  - (6) ラッキー抽選会
  - (7) サミット会議結果の報告
  - (8) 奥入瀬川宣言
  - (9) 閉会のあいさつ 奥入瀬川実行委員会 前山事務局長
5. 実施状況  
サケつりに関わる方々の懇親の場として、和やかな雰囲気の中、大いに盛り上がった。





会場の様子



各河川からのPRメッセージ



報告「釣り人から見た日本のサーモンフィッシング」



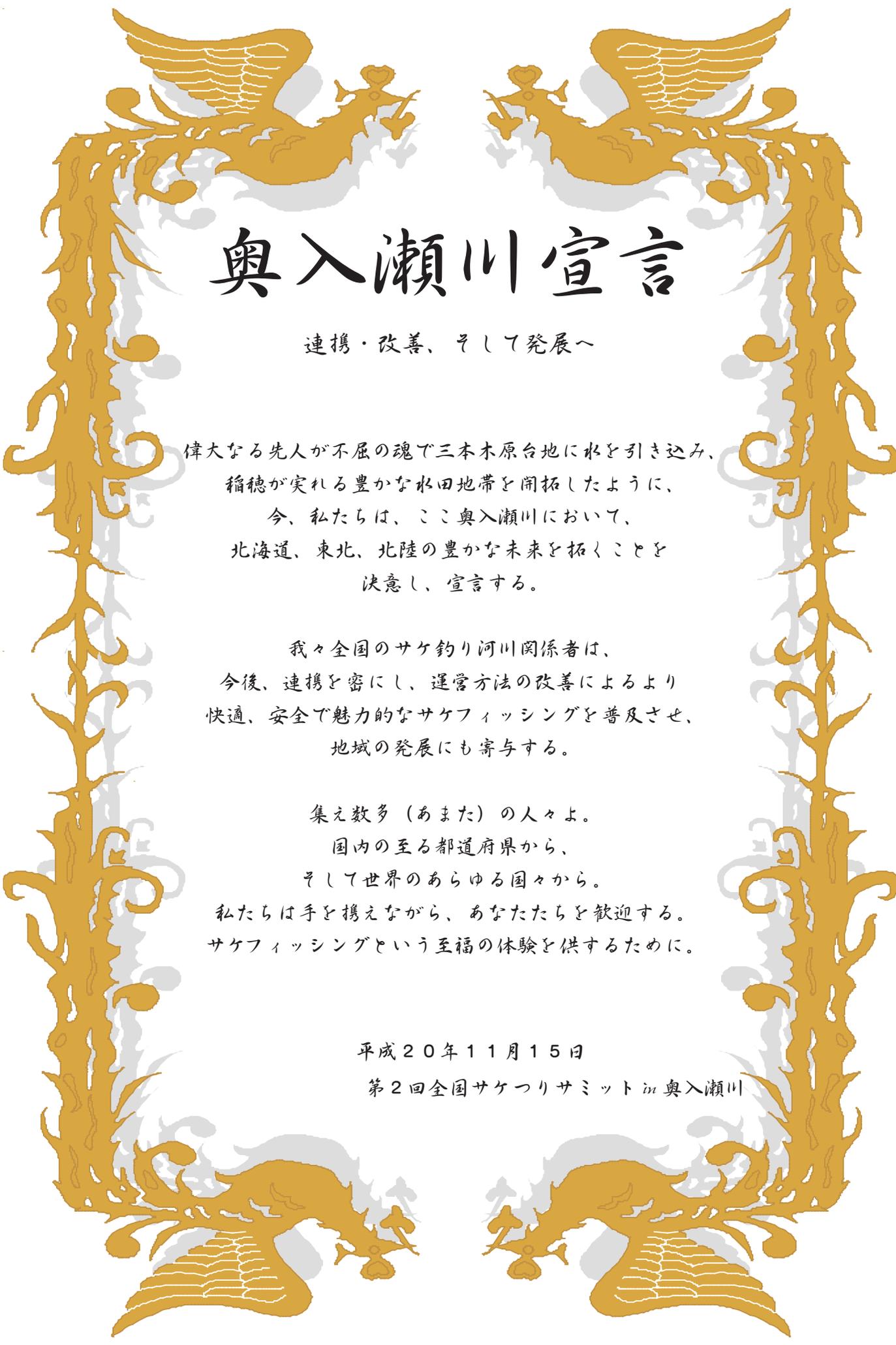
郷土芸能 南部駒おどり公演



各河川の展示PRコーナー



ラッキー抽選会



# 奥入瀬川宣言

連携・改善、そして発展へ

偉大なる先人が不屈の魂で三本木原台地に水を引き込み、  
稲穂が実れる豊かな水田地帯を開拓したように、  
今、私たらは、ここ奥入瀬川において、  
北海道、東北、北陸の豊かな未来を拓くことを  
決意し、宣言する。

我々全国のサケ釣り河川関係者は、  
今後、連携を密にし、運営方法の改善によるより  
快適、安全で魅力的なサケフィッシングを普及させ、  
地域の発展にも寄与する。

集え数多（あまた）の人々よ。  
国内の至る都道府県から、  
そして世界のあらゆる国々から。  
私たらは手を携えながら、あなたたらを歓迎する。  
サケフィッシングという至福の体験を供するために。

平成20年11月15日

第2回全国サケつりサミット in 奥入瀬川